

# 第 130 回院内集会

転居された方は事務局(svcf-admin@svcf.jp)まで転居先をお知らせください

第 130 回院内集会は 2023 年 10 月 11 日、フランスから福島県大熊町に移住して農業に取り組んでおられるフランス出身のエミリーさんを講師にお招きして下記の通り行われました。外国人を講師とする院内集会は初めてです。

○日時: 10 月 11 日 (水曜) 10:00-11:00

○開催方式: オンライン (Zoom)

○テーマ: 「移住してきた“わがふるさと”への想い」

○開催方式: オンライン

○講師: フランスから大熊町に移住してきたエミリーさん

ブケ 南口 エミリー

イラストレーター。大熊町でラズベリー、ブルーベリー栽培など農業に取り組む。

1988 年、フランス・パリ近郊生まれ、ブルターニュ地方育ち。

2008 年以降たびたび来日し、2011 年から東京で生活。2015 年、日本人男性と結婚。

都内でフランス語教室の講師を勤めていた 2018 年 8 月、福島県出身の生徒の勧めで福島を訪れ、それから毎年県内を旅行。

2021 年から会津若松市に住む。2022 年に訪れた大熊町が「ふるさとブルターニュの山々を思い出させる」のに魅かれて、2022 年 5 月移り住む。町の紹介で 1.7 ヘクタールの農地を借り、地域のひとたちから栽培法を教わってラズベリーなどの栽培を手掛けている。観光農業を目指す。

「この地の魅力を海外にも伝え、地域の復興/振興に向けてのささやかでも一石を投ずることができれば」と願っている。

<どのようなきっかけで日本に来ることになったか>

SNS で知り合った日本人に会いに来た。その後毎年、訪日。2011 年に東京・雪谷大塚近くで暮らす。

アクセサリーを売ったりフランス語の教師をして生計を立てていた。日本語は日本に来てから習った。ひらがなを覚えようとして、子供の本の「かちかち山」を上から下へ、右から左へと読んだが、すごく難しかった。

横浜に引っ越したあと、石川町の日本語学校で日本語を習う。あまり上達しなかったが、福島に来てから日本人と話す機会が増え、日本語が少しくまくなったと思う。



<どうして日本に住もうと思ったか>

最初は、日本語が話せないから、故郷に帰ろうと思ったこともあった。でも日本語を話せないまま、帰るのは少し悔しい気持ちがあった。

母は、日本に引っ越したときは大震災の翌月だったから反対したが、自分の道を進みたい、少し冒険を試みたかった。ずーっとフランスで暮らすというイメージはなかった。

<日本に来たあと、大熊町に定着されるまでの経緯は>  
フランス語の生徒だった福島の人から誘われて2018年に会津に旅行した。それから福島が気に入って、定住したいと思った。福島で「赤べこ」のイラストを書いて、それが讀賣新聞で「赤べこに恋したフランス人」の記事になり、人の縁が広がった。

<日本は、外国人が多く一緒にくらす欧米の国に比べ“ガイジン”に対して閉鎖性とされるが、外国人だからといって区別されることはなかったか>

東京や横浜にいた時は苦勞した。フランス人のコミュニティとのつながりはあったが、彼らは半年や1年で帰国し、付き合いフランス人は直ぐ減ってしまう。都会では、日本人とは違う外国人としてずっと見られていた。

しかし、会津で暮らすようになってからは、普通に日本人同様に付き合いもらえた。うれしかった。

<そしていま、大熊町に定住することになったのは>

まずイラスト書いたことで双葉町を知り、実際に行ってみて、農業支援などのことを知り、なぜか農業に夢をもった。そしてそこで大熊町出身の人とのつながりができて、大熊町に移住した。

<何故農業に取り組むことになったのか>

もともと植物を育てるのが好きだった。高校生の時には農業高校に行きたかったが、周りから農業は大変だと言われて普通の高校に行った。しかし、農業への思いが残っていた。

<いまのようにラズベリー等栽培をすることになったのは>

ベリーが好きだったから。フランスでも良く食べていた。まずはラズベリーやブラックベリーなど自分

が食べたいものを育てたかった。



「天の川農園」と名づけられたたエミリーさんの農園

<今の生活、お仕事で困っていることはなにか>

ネズミが多い。シカも来る。最近サルも来た。雑草は多いが、雑草を取ればウサギが来る。しかし、雑草はこの夏の猛暑なかで苗の日陰になってくれて、それで苗が残っている。

<1.7ヘクタールの元水田だったところを借りて農業を始められたが、この先どのように展開耕作していかれるか>

今は麦を植える準備している。種類はわからないが、麦の種をもらっている。ブドウも育て始めている。

<麦を作るとなると、元の水に地中深く根を張っているカヤをどうするかが問題ではないか>

大丈夫だと思う。カヤがのびてくるのは梅雨のころで、その前に麦の収穫ができるだろう。

<日々の暮らしはどのようなものか、どのように生計を立てているか、お休みの日はあるのか>

夏は、朝から晩まで一日中農作業。秋になって今は朝晩だけ。休みはなかなか取れない。農業は始めたばかりで収入にはならない。双葉だるまやイラストの販売が主要収入。福島や、いわき、会津、岩手などでオンラインや店で販売している。テレビで出演した後はお客の注文が増える。

<私たち福島原発行動隊のようなボランティアグループに協力を頼みたいのはどのようなことか>  
今は、草刈りが必要。

<今後に向けてどのような計画、夢を持っておられるか>  
観光農園を造って観光客を呼びたい。メディアも。果物を食べながら、自然をリラックスして楽しんでもらいたい。  
それから個人的には、農園の近くにコンテナハウスを作って農園のそばで暮らしたい。

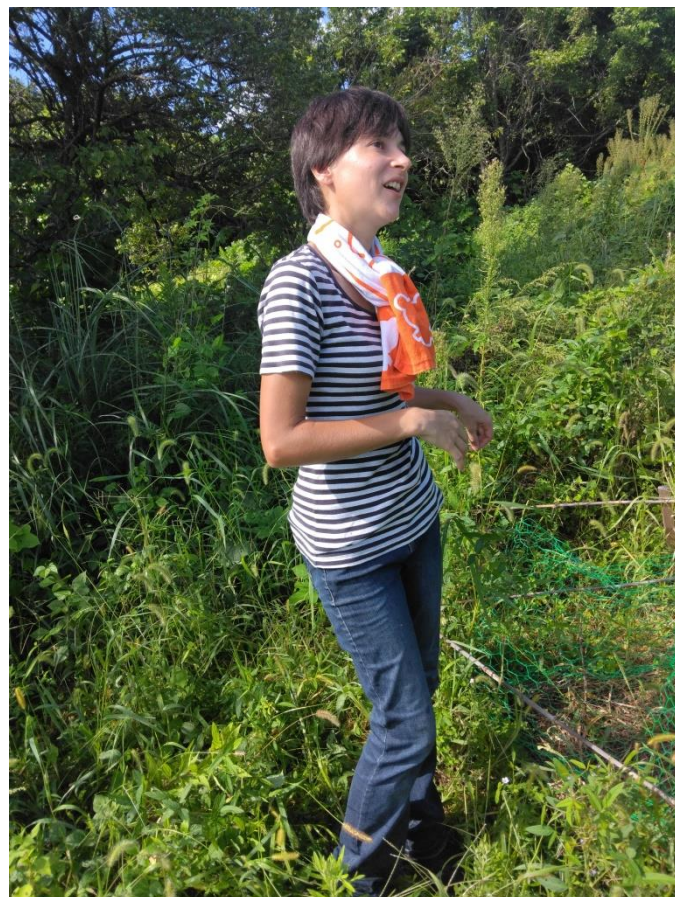
.....  
【質疑】

<草を根っこから刈らないとうまいかないのではないかと>  
ラズベリーはとても強いので、雑草を刈らなくても大丈夫。今年の夏は雑草のおかげで苗が助かった。

<ふつうは、都会より田舎の方が閉鎖的だと思うのだが>  
田舎がなぜか開放的。横浜、東京の方が見られている感じがした。田舎の方が、受け入れてくれた。

<ベジタリアンであることから、食事に困ることはないかと>  
肉も、塊でなくスープになっていればいい。最近はベジタリアンのための食事も増えた。CoCo 壱も最近はベジタリアン・カレーを提供するようになった。

<観光農業としていくためには雑草刈など園地の整備が必要となるだろうが、そのための資金はどうするつもりか>  
とにかく生物と共生するように、草はできるだけ刈らないで、草木、虫、鳥が生きている農園にしたい。三年くらいすればベリーが大きく成長するだろう、楽しみにしている。



雑草の中でたくましく育つラズベリーを愛しむ

<暴発事故を起こした福島原発の廃炉事業の進展をどのように考えているか、情報はどのように得ているか>  
毎月レポートは出ているが、日本語だけで私にとっての情報としては十分とは言えない。英語版があれば助かる。大熊町に来ていつも何かと闘っている感じがする。

<「闘っている」というのは放射能と闘っているということか>  
震災前の双葉郡と震災後の双葉郡が闘っている感じがする。

<福島県の放射能汚染について日本人でも怖がる人がいて、いまでも福島のコメを食べないような人がいるが、怖くないか>

福島のコメと他県でとれるコメとどれほど違うのか。他のコメもマイクロプラスチックや農薬などの影響を受けていて、本当に安全かどうかはわからない。福島のコメは厳しい検査を受けているから、逆に大丈夫ではないか。

<エミリーさんは本当に根性がある。どうして、そのように育ったのか>。

家族には必ず“黒い羊”(変わり者)がいると言われている。私は“黒い羊”と言われてきた。

<エミリーさんの生き方に共感し、勇気をもらいました。ありがとうございました>

## 福島県移住者相談会

「福島暮らし&しごとフェア 来て、見て、知って」と題する移住相談会が、10月1日の日曜日、東京・有楽町の交通会館で開催された。福島県庁企画調整部ふくしまぐらし推進課の主催で、2017年以来7回目。県内市町村など69団体参加の、これまでで最大規模の相談会。前年を上回る200人余のひとたちが来場し、会場内に設けられた各自治体ごとのブースで地域の状況などにつき説明を受けるなど熱心に移住に向けての相談をしていた。

福島原発行動隊は、福島復興を支援する活動の一環として2022年10月以来月例の院内集会で、福島県内町村の首長に「明日のわがふるさと」の展望を、また避難生活を強いられてきた原発事故被災者に「わがふるさとへの想い」を語ってもらってきた。

2023年10月以降は帰還県民ではなく、県外、海外からの移住者が「移ってきたふるさと福島への想い」を語る集会を開催している。大震災/原発事故から既に12

年余となり、被災者のなかには、職場、学校などの関係から避難先に定着して帰還を望まなくなっているひともある。このため、被災県民が戻ってくるのを待つばかりなく、移住者を迎えていくことが福島県の新たな復興/振興策となっている。



東京・有楽町の交通会館に設けられた県内市町村の相談ブース

## 【行動隊 11月スケジュール】

下記の会議・集会はどこでもご参加いただけます。

### ● 院内集会

・日時:22日(水曜)11:00-12:30(予定)

・テーマ:廃炉事業の現況

・報告者:経産省エネルギー庁担当官等

### ● 『SVCF 通信』

29日(水曜)発行(予定)

### ● 連絡会議

以下の各金曜日 10:30—

3、10、17、24

